

亜鉛鉄板の切口

- ◎ 亜鉛鉄板の耐蝕性について、前回その優秀性を説明しましたが、切断した切口からさびるのではないかと御質問がありましたのでお答えします。
- ◎ MiNi通信 S 5 0 . 6 . 5 号をもう一度御覧願います。切断面は大きなきずと考えられますので、空気中の水滴が切断面を覆ってしまうほど大きいときは、流電防蝕効果で錆は発生しません①。水滴が小さくなると、鉄と亜鉛の境目についた水滴の部分はさびませんが、鉄の部分だけについた水滴は、錆の原因となります②。そのため鉄が厚いほど錆が目立ちます。
- ◎ 亜鉛目付量の多い亜鉛鉄板を切断すると、切口に亜鉛がかぶさって、鉄の露出部分が少なくなり、防蝕効果を増します③。
- ◎ 切口に発生した錆の進行方向は、亜鉛にはさまれた防蝕作用の強い部分なので、その進行は喰止められてしまいます④。
- ◎ 結論として、目付量の多い亜鉛鉄板は、厚さ 2 mm 以下では切口の錆は殆ど目につかず、3. 2 mm 位では切口に多少赤錆が見えますが、錆の進行が遅いので実用上差支えないようです。
- ◎ **ネグロスでは省資源、公害防止の一助として、亜鉛鉄板製品の開発を心掛けております。**

